岡山大学 定例記者発表 配布資料

文明動態学研究所
マイクロフォーカス X 線 CT 装置の共用化について

岡山大学文明動態学研究所に 2026 年 3 月にマイクロフォーカス X 線 CT 撮影装置が設置されました。2026 年 9 月以降、研究設備機器共用システムを通じた外部利用が可能となりました。考古資料から動植物標本、工業製品まで、研究分野を問わず利用できますので、文理融合的共同研究のさらなる推進や産学連携に役立てたいと考えています。



装置と CT 画像の例　断面画像と三次元表示により内部構造を観察

装置の概要と特長

機種：島津製作所 inspeXio SMX-225CTS

X 線を用いて対象物の内部を断層画像として可視化する装置です。資料を切断せず、非破壊・非接触で内部構造を調べられます。取得したデータから任意の位置の断面画像や X 線透過画像を作成し、三次元表示による観察もできます。最大で直径 60 ㎝、高さ 80 ㎝、重さ 50kg の試料を搭載することができます。

X 線発生装置

・最大管電圧：225 kV　・最大管電流：1000 μA　・定格出力：135 W

X 線検出器

・検出器：X 線フラットパネル検出器　・有効画素数：3000 画素×3000 画素

・階調数：16 bit　・サイズ：16.4 インチ×16.4 インチ

活用対象と期待される効果

土器・金属器・木製品などの製作技法・素材・保存状態の分析に活用することで、地域の文化財研究の発展、動植物標本や工業製品などの分析を通した自然科学分野の研究や分離融合的研究の推進、産学連携による地域産業への貢献などが期待されます。

利用方法と問い合わせ先

調査・研究に関心のある方は、まず下記メールにお問い合わせください。

利用相談窓口　xct-ridc@okayama-u.ac.jp

利用規定・利用要項・利用料金表については、下記ウェブサイトでご確認ください。

https://ridc.okayama-u.ac.jp/page-5038/